

事業所における自己評価

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8				
	②	職員の配置数は適切である	8				
	③	清潔で、心地よく過ごせる環境になっている	8				
業務改善	④	保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに意向等を把握し、業務改善につなげている	8				
	⑤	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7		1		
	⑥	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8				
保護者への 説明等	⑦	アセスメントを適切に行い、状況に応じ子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で個別支援計画を作成している	8				
	⑧	個別支援計画には、「発達支援」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている	8				
	⑨	個別支援計画に沿った支援が行われている	8				
	⑩	活動プログラムの立案が固定化しないようにチームで行っている	6	1	1		
	⑪	その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8				
	⑫	日々の支援に関して記録をとり、支援の検証・改善につなげている	8				
	⑬	モニタリングを行い、半年毎に個別支援計画の見直しの必要性を判断している	8				
関係機関や 保護者との	⑭	関係者や相談支援員を中心とした関係機関と連携した支援を行っている	8				
	⑮	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8				
	⑯	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8				

連携	⑰	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容の情報共有と相互理解を図っている	8				
	⑱	協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7		1		
	⑲	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8				
保護者への説明責任等	⑳	支援の内容は重要事項説明書に基づき、保護者へ丁寧な説明を行っている	8				
	㉑	個別支援計画を示しながら支援内容の説明を行い保護者から同意を得ている	8				
	㉒	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に応じ必要な助言と支援を行っている	8				
	㉓	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、体応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8				
	㉔	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		1		
	㉕	個人情報の取扱いに十分注意している	8				
	㉖	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っている	8				
非常時の対応	㉗	災害・防犯等、非常時に備え、訓練が行われている	6	1	1		年間で実施する日などをあらかじめ決めた方がよい
	㉘	事前に、服薬やてんかん発作等の子どもの状況を確認している	8				
	㉙	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7				無回答 1
	㉚	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8				
	㉛	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8				
	㉜	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、個別支援計画に記載している	8				

